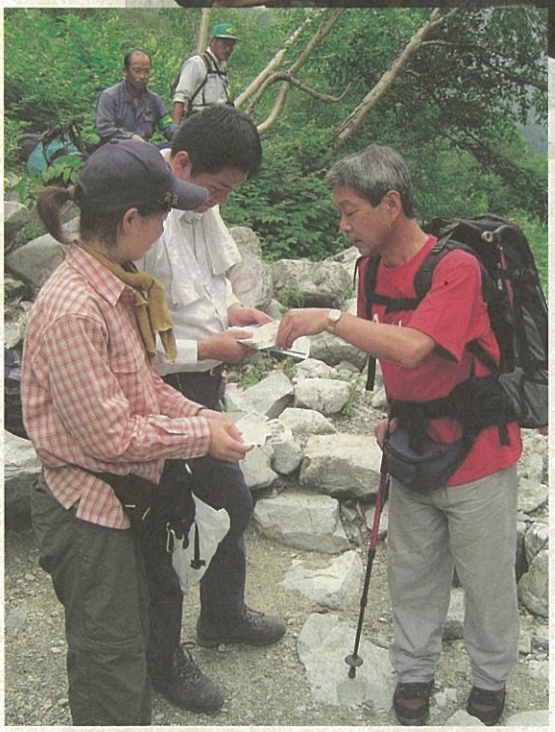
広報
中部の森林（もり）

国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎(026)236-2531
http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/

立山室堂でのパトロールの様子（富山署）



上高地涸沢でのパトロールの様子（中信署）

各地で高山植物等保護パトロールを実施

（Ｐ３に関連記事）

主な項目

○平成16年度中部森林管理局決算概要を公表 …… Ｐ２
○各地で高山植物等保護パトロールを実施 …… Ｐ３
○各地からのたより …… Ｐ５

この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

平成十六年度　中部森林管理局決算概要を公表

去る九月十三日、平成十六年度中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成十六年度の決算は、抜本的改革の基本方針に基づき、森林の公益的機能の発揮と財務の健全性の回復に努めた結果、新規借入金からの脱却など収支が改善され、二十二億八千万円の収入超過となりました。しかし、損益計算上では、前年度より七億一千万円の費用の縮減が図られたものの三十一億五千万円の損失となりました。

◆発生収支

収入のうち、事業収入の概ねを占める林産物等収入は、長引く木材価格の低迷、販売量の減少等で、前年度より二億八千万円減の四十億円となりました。

林野等売払代等は、土地需要が減退している中ではありますが廃止分局跡地等の売払及び雑収入により、前年度より三億四千万円増の三十一億六千万円となり、事業収入全体では前年度より六千万円増の七十一億六千万円となりました。

一方、一般会計からの受入金は、前年度より十二億円増の九十三億七千万円となりました。

また、借入金は、新規借入金がゼロとなり、前年度並みの七十六億九千万円となりました。

支出については、職員数の適正化等に努めたこと、退職者の減少等により給与経費等は、前年度より十四億一千万円減の八十二億円となりました。

各事業費については、地球温暖化防止等に資する森林整備の推進等のため、前年度より三億円増の六十七億六千万円となりました。

借入金に係る償還金・支払利子は、前年度より十四億七千万円増の九十三億八千万円となりました。

以上の結果、二百六十六億一千万円の収入に対し、支出は二百四十三億三千万円で、二十二億八千万円の収入超過となりました。

◆損益計算

経費の節減が図られ、林野等売払収入及び雑収入等が増加したことにより、損益計算上の損失は前年度より六億九千万円減少して三十一億五千万円となりました。

損益計算

（単位：百万円）

費用（17,166）		収益（14,016）	
経営費	5,843	売上高	4,055
一般管理費及び販売費	1,915	林野等売払代	1,927
治山事業費	2,388	雑収入	1,234
		治山勘定より受入	2,388
減価償却費	3,986	一般会計より受入	4,411
資産除却損	1,799	雑益	1
支払利子	1,092	本年度損失	3,150
雑損	143		

発生収支

（単位：百万円）

収入（26,609）		支出（24,332）	
林産物等収入	3,998	給与経費	6,075
林野等売払代	1,927		
貸付料等雑収入	1,234	基幹作業職員給与	2,122
治山勘定より受入	2,388	業務費	2,139
一般会計より受入	9,370	森林環境保全整備事業費	2,852
		林道施設等災害復旧事業費	854
		その他	912
借入金	7,691	償還金及び支払利子	9,379
		収支差	2,277

金額はそれぞれの科目で四捨五入しているので合計金額とは必ずしも一致しない。

各地で高山植物等保護パトロールを実施

【国有林野管理課】中部局管内には、「日本の屋根」と言われる日本アルプスを始め、白山、御岳、八ヶ岳等の多くの高山帯・高原があります。

夏山シーズンを中心に、各森林管理署・県・山小屋関係者・ボランティア等による合同の高山植物等の保護パトロールを各地で実施しました。

パトロールでは、貴重な植物の踏み荒らしや盗掘等の防止、美しい環境を守るためのクリーン活動などに取り組みました。

【北信署】八月五日、北信五岳の一つである飯山市斑尾高原において、高植協北信地区協議会メンバーによる集中パトロールを実施しました。

会長の酒井署長始め、環境省戸隠自然保護官、地元飯山警察署等の会員と保護指導員、そして本部の局国有林野管理課長、県環境自然保護課担当官が加わり、総勢四十五人で実施しました。

斑尾山は、七月二日にオープニングセレモニーを行い供用が開始された「信越トレイル」の出発点のため関心も高く、例年より多くの参加者がいました。斑尾観光協会の協力により、各コースに地元のガイドが付き、希望湖・大平峰、沼の原湿原、赤池周辺、斑尾山頂の四コースに分かれてパトロールを行い、動植物等の保護指導とゴミ拾いなどの美化活動に汗を流しました。

高原一帯では、オオイワカガミ、シラヒゲソウ、ミズオトギリなど可憐な花が咲いており、ヤナギランも咲き始め、湿原では白いミズチドリが名残惜しそうに咲いていました。

管内には著名な山や観光地が多くあるため、当協議会では毎年場所を変えて集中パトロールを実施し、保護活動に努めています。

パトロールに参加した面々

【富山署】富山署では、中部山岳国立公園の北部に位置する立山・黒部地域を始めとする北アルプスを管理しています。夏山シーズンは職員による巡視のほか、臨時雇用による高山植物保護パトロール（グリーンパトロール）を行っています。

雇用される人のほとんどは二十歳代前半の学生で、室堂、薬師・雲の平、黒部、朝日・白馬の四区域に別れ三十五日間にわたり二十人（述べ六〇〇人）がパトロールを実施しました。

パトロールでは、立山・黒部アルペンルートの拠点でもある標高二、四五〇mの室堂には八月だけでも約四〇万人が訪れています。近年は、中国・台湾・韓国方面からの観光客が急増しており、言語が通じないなかでの注意や呼びかけに苦労しました。

稜線では、相変わらずゴミのポイ捨てとトイレのマナーの低さが目立ちました。また、ストック愛用者が急増するなかで、キャップを付けなかったり、歩道外に立てる行為により、歩道脇の植物が痛められているものが、数多く確認されました。

学生のほとんどは、環境を学んだり興味がある者ですが、講義では学びきれない高山帯における植物やライチョウ等の保護の現状やあり方を実践をとおして感じ取っていました。

【中信署】「ご苦労様」、「ゴミを捨てる人なんかいるのねぇ。がんばって」。

高山植物のパトロールで、ゴミを拾いながら山を歩くと、すれ違う登山者に何度となく声をかけてもらいます。

中信署は、高山植物等の保護にも力を入れており、署員と一般公募で集まったグリーンパトロール隊がパトロールを実施しています。夏山シーズンを中心に、白馬・上高地・乗鞍・美ヶ原などで通常のパトロールのほか、山岳美化活動も実施し、必要な時は注意も行います。高山植物等保護対策協議会としては、普及啓発用のしおりやポスターを配布し、高山植物等保護をふもとから広く呼びかけています。

長年にわたる取り組みの成果から登山者のマナーが向上し、ゴミのポイ捨ては減りました。その一方で袋にまとめた弁当ガラが岩陰に押し込めてあるのも度々見つけます。

また、最近特に目立っているのが、写真撮影のために登山道をはずれ、植物を踏みつけるというものです。いわゆる雑草なら、何度でも再生しますが、高山植物の生態はこれと全く違います。厳しい環境の下再生するのは難しく、枯れてしまうケースも多いのです。

もう一つは、ペットを連れ込む例です。高山の特殊な生態系に影響が出るのではと心配しています。

パトロール中に出会った夫婦、親子、仲間づれなど、それぞれ山上での感動を「ライチョウの親子が歩いていた。」、「かわいい花が咲いていた。」など、うれしげに話してくれました。自分だけでなく、次に来る人や自分の孫子も同じ感動を分かち合うには、より多くの人が山で何をすべきか・すべきでないかについて学び、考えることです。そのための取り組みを今後も続けていきます。

登山者にしおりを手渡してPR活動

森林施業現地検討会を開催

尾張西三河、長良川第三次地域管理経営計画等

[計画課] 七月二十七、二十八日の二日間、尾張西三河、長良川森林計画区の第三次地域管理経営計画等の策定に向けた現地検討会を、愛知所管内の瀬戸国有林及び岐阜署管内の古城山国有林において開催しました。

検討会には、学識経験者として、名古屋大学名誉教授の只木良也先生、信州大学農学部教授の植木達人先生を迎え、局長、名古屋事務所長をはじめ局署担当者四十二名が参集し、現地の森林を前に具体的な検討が行われました。

両計画区の国有林は、愛知、岐阜両県の都市近郊林となる森林が多く、レクリエーションの森や市街地の背景林としての役割の中での森林施業や配慮事項について意見交換を行いました。

東海自然歩道周辺の森林整備の検討

高齢級林分の施業検討

一日目は、尾張西三河森林計画区の瀬戸国有林内において、展望台から見える春日井市の高蔵寺ニュータウンを見ながら、都市近郊林として様々な役割を果たしている国有林の位置付けについて認識を深めた後、レクリエーションの森における森林整備について検討を行いました。現地では、マツ枯等により照葉樹等が侵入した二次林的な人工林の整備方向やレクリエーションの森内の高齢級人工林の修景施業等について、また、レクリエーションの森のゾーン区分に対応した施業の整理や、利用者へのPRを含めた積極的な森林整備について意見をいただきました。

二日目は、長良川森林計画区の古城山国有林において、市街地の背景林として役割を考慮して実施された既存の複層林施業地を対象に、複層林施業の効果や上層木、下層木の取扱いについて検討を行いました。また、複層伐前の間伐実行地において、施業の配慮事項等について検討しました。

最後に現地において検討会のまとめを行い、只木先生から、「この国有林の持つ様々な役割を踏まえた森林施業を考えることは必要だが、今ある姿をまず大事にしながら山を育てていくことが必要である。」植木先生からは、「時代時代のニーズはあるが、山づくりはその時々のニーズのためだけに行ってきたものではない。山は五十年先を見なければ結果がでないものであり、急激な変更は通用しない。我々は、常に技術的な中継ぎ者であるという発想が必要ではないか。」などの講評をいただきました。好天の二日間、現地で熱心かつ活発な意見がやりとりされるなど有意義に終了しました。

「野生が蘇る"緑の回廊"(仮)」のテレビ撮影を実施

[広報室] 長野朝日放送（ABN）では、開局十五周年記念番組として、ツキノワグマの生態を中心に、様々な動植物の生態、自然のすばらしさ、森の重要性、人と自然の共存などを考える番組を作成することとし、一年間にわたって撮影を行っています。

「緑の回廊」を自然の再生と動物との共生への夢の具現化と位置づけ、「緑の回廊雨飾・戸隠」と「緑の回廊八ヶ岳」で四月から撮影を開始しました。八月には、ナビゲーターとして女優の鶴田真由さんが、「緑の回廊雨飾・戸隠」と「緑の回廊八ヶ岳」内を歩き、収録がおこなわれました。鶴田さんの目から見た自然、「落葉広葉樹のやさしい感じ」、「空気と水を多く含んでいる感じ」などの感想をもって自然にふれている様子が撮影されました。

放送は来年二月（予定）にテレビ朝日系列で全国放送されます。

ブナ林内で撮影中の鶴田真由さん

各地からのたより

『森づくりin北八ケ岳』

【東信署】八月二十日～二十一日の二日間、八ケ岳国有林の北八ケ岳自然休養林白駒池周辺においてNPO地球緑化センターが、第百四十回「山と緑の協力隊森づくりin北八ケ岳」と題して、参加者十五名により森林ボランティア活動を行いました。

当地は、標高二千メートル以上で白駒池や高見石山、丸山のシラベ等の亜高山・高山性植物が相まった美しい山岳景観となっており、夏には登山・ハイキングなどのため多くの人が訪れているところにあり、今年も、北八ケ岳自然休養林に繋がる国道二九九号線沿いの両側に、周囲の母樹からの種子により自然に繁茂した森林を、亜高山帯の森林へ移行させることと、美的景観を促すための修景除伐を実施しました。

除伐作業の様子

参加者は、初めて森林での作業を体験する人もいることから、ノコギリの取扱いの安全指導や、除伐木の処理の仕方などを当署の担当者が説明してから、慎重に除伐木を選木し、二時間ほど汗を流しました。

その後、参加者は北八ケ岳自然休養林白駒池周辺においてコメツガ、シラベ、ウラジロモミ、ダケカンバ等の亜高山性樹種からなる天然林の中で自然観察会を行い、北八ケ岳の自然を満喫して終了しました。

作業を終えて記念写真

森林インストラクター研修実施

【南信署】八月二十三日、南信署独自の職場内研修計画に基づき、富士見町西岳国有林の遊々の森「多摩市民の森」において、管内の森林官など十三名を対象に森林インストラクター研修を実施しました。

当署では森林教室等の回数が多く、その対象者は年間一、二〇〇人にも及んでいます。

このため、森林官等を対象に森林インストラクターとしての資質の向上を目的として今回の研修を組み入れたものです。

カラマツの根の観察風景

研修は、職員による講師から一とおり手本を示した後、四班に分かれて一人ひとりパネル等を使い実演実習を行い、お互いに改善点や推奨点などを話し合う形で進めました。

受講者は、地面を掘り展示してあるカラマツの根の観察や、間伐作業での手順、安全確保のための要点等について真剣に学んでいました。

参加した職員は、「日常業務の中では、勉強する機会が少なく、新しい発見があり大変役に立ちました。」との感想も聞かれました。

今後、受講者一人ひとりが今回の研修を参考に森林インストラクターとして活躍する予定です。

講師の説明を真剣に聞いて

「国際森林環境フォーラム2005」

［愛知所］八月二十五日、新城市文化会館において、「国際森林環境フォーラム2005」（主催：穂の国森林祭2005実行委員会、林野庁後援）が開催されました。

フォーラムは、アジア地域で様々な森づくりに取り組む三人の外国人ゲストを迎え、様々な課題を持つアジア地域が「森づくり」という具体的なテーマを通じ、環境と経済が調和したエリア実現の可能性を模索するとともに、併せて、国内外の有識者等により、活発な議論を展開し、日本の果たす役割と「森づくりを通じたアジア地域のパートナーシップ」の可能性について議論されました。

フォーラムの様子

第九回名古屋CF事業

［名古屋事務所］「台風被害跡地の森づくり」をテーマとし、第九回名古屋シティ・フォレスター事業を九月三日に瀬戸国有林で実施しました。

募集段階では昨年に引き続き、台風被害跡地と「森世紀の森」園地周辺の下刈を予定していましたが、下見の段階で予定箇所に大きなスズメバチの巣を発見したため、急遽作業地を変更して実施することとなりました。

当日は残暑が厳しく、二十七名の隊員は汗びっしょりになりながらの大変な下刈作業になりましたが、植栽木がしっかり顔を出した現地を振り返り、その達成感から「とてもいい汗がかけた。」との声を参加者の方々から聞くことができました。

汗をかいての下刈作業

「木曽川流域住民」による間伐体験で汗

〔木曽川・森づくりin赤沢〕

［ふれあいセンター］九月三日、森林整備を通じて、木曽川に関わる上流と下流住民が交流を図るイベントを、赤沢自然休養林で開催しました。

当日は晴天にも恵まれ、下流域である愛知、岐阜両県及び長野県内から応募された約八十名の方が参加して、自然観察会やヒノキ林の間伐体験に汗を流しました。

開会式の冒頭、関中部森林管理局長から、「水の交流」、「木の交流」、「人の交流」をキーワードに、木曽川の国有林を通じた上下流の交流を図り、国民参加の森づくりを進めていきたい。」との挨拶があり、引き続き各班に分かれて各イベントを開始しました。

間伐体験では、作業前に蜂よけの網をヘルメットに付けるのにも苦労し、また作業は、「暑くて大変」という声も聞かれましたが、鋸を挽く姿勢は真剣そのものでした。

参加者は二人一組になり、息を弾ませながら一生懸命に鋸を挽き、「倒れるぞ」という掛け声と共に、木の「ドサッ」と倒れる音が林内のあちこちに響き渡っていました。

また、自然観察会では、森林鉄道からの景色を楽しんだ後、やまぼうし自然学校のインストラクターの案内で赤沢自然休養林内の自然観察を行いました。

参加者からは、「森の歴史・御神木伐採の話し等勉強になった。」、「散策路も整備され、のんびりとした風景にも感動した。」、「山が好きなので自然の中で作業ができて嬉しい。来年も実施されるようなら是非参加したい。」などの感想が寄せられていました。

間伐作業の様子

開会式風景

「樹木の病気と対処方法などを勉強！」
～第六回森林ふれあい講座～

【名古屋事務所】九月十日、じょうこうじ響の森において樹木医　川尻秀樹氏を講師に招き、十六名が参加して第六回森林ふれあい講座「木も病気になる　木のお医者さんのお話」を開催しました。

座学では、「樹木の特性と管理方法」を中心に、中部地域の低山帯から高山帯までの植生や土壌の特性について学習したあと、樹木の病気の種類や防除法について学びました。

その後の現地観察では、実際に病気にかかっているサクラ等を観察し、病気の種類や状態を見るとともに、樹木を剪定する場合の箇所と注意事項などについても話され、巧みな話術と豊富な知識に、皆真剣にメモを取っていました。

受講後、参加者からは、「樹木の管理方法や病気等について正しい知識が学べた。」、「これからは関心を持って樹木観察を行いたい。」など、今回学んだ事を生かし、適切に庭木等の管理を行っていきたいとの感想が多く出されました。

講師の説明に熱心に聞きいる参加者

カートカン自動販売機の設置

【広報室】局庁舎玄関ロビーは、森林・林業のPR等のため、床の改装やソファ、ペレットストーブの設置、掲示板の整備などを行い、来局者がくつろげるスペース作りを行ってきました。

今回、アルミ容器等に代わる、間伐材や端材などの国産材を利用したカートカンの自動販売機を設置し、来局者に対し、間伐材の利用促進、森林整備の推進等のPRを行い理解を深めていただくこととしています。

カートカン

カートカンは、強度のある針葉樹パルプ（間伐材や端材、木くず）を主原料としています。バリア層にPET又はGLフィルム（ポリエチレン・テレフタレート樹脂が成分）を使用しバリア性を高くしています。

カートカンは紙パックと同様リサイクルが出来ること。また、間伐材マークを取得しており、売り上げの一部は森林基金等に還元され、植樹活動に役立てられています。

カートカン自動販売機
ヒノキ間伐材で覆われて

利用する職員

風景紀行

中部山岳国立公園 立山

富山森林管理署
（各署の景勝地等を紹介）

中部山岳国立公園「立山」

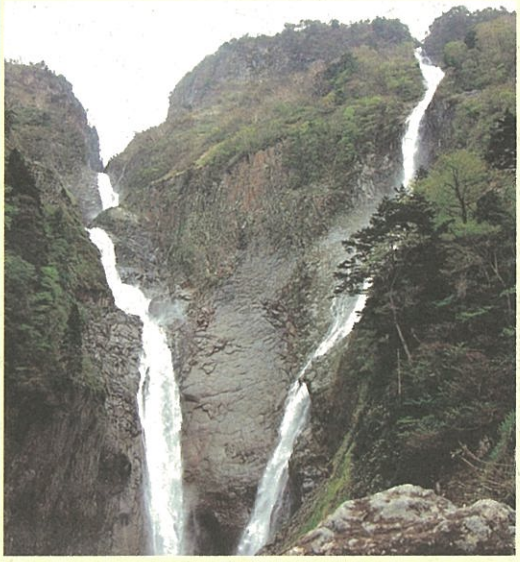
【富山署】山岳信仰のシンボルとして「神が棲む山」と崇められた立山、以前は一部の修験者だけが見ることができた神秘の山も、今では誰もが気軽に高山植物の大群落や噴煙あげる地獄谷等、標高三、〇〇〇m級の雲上の景観を楽しむことが出来ます。

称名滝

「日本の滝一〇〇選」

主峰雄山を源に地獄谷、弥陀ヶ原高原、大日岳の清水を集めた称名峡谷から四段に折れて一気に流れ落ちる「称名滝」は、落差が日本一の三五〇mもあって、国の名勝、天然記念物に指定されています。

雪解け等の豊水時に右手に「ハンノキ滝」が現れ、称名滝の滝壺めがけて斜めに滑り落ちる。五〇〇mの白い帯は、称名滝の景観に一層の光彩を添えます。



豪音と爆風の称名滝

タテヤマスギの巨木

「森の巨人達一〇〇選」

美女平から大観台までの三〇〇㍍には幹周り六m以上の巨木が一四七本もあり、八m～九mの巨木もあります。タテヤマスギは主に富山東部の高地に自生する天然性スギの総称で、この一帯は国内でも数少ない天然性スギ巨木の集団的生育地です。一度、歩いてみて下さい。

「仙洞スギ」幹周り九・四m

弥陀ヶ原

立山連峰の紅葉は、九月中旬から始まり、秋の深まりと共に徐々に降りてきて、弥陀ヶ原では、ナナカマド、ダケカンバ等の木々が色づき、夏までのおもむきを一変させます。大高原に赤黄緑のジュウタンを敷き詰めた景観は目を楽しませてくれるでしょう。

アクセス方法

立山駅より称名滝へはバス又は車で二〇分、徒歩三〇分

立山駅より美女平へはケーブルカーで七分、美女平より弥陀ヶ原へは高原バスで約四〇分

行事・イベント等の予定

◎国有林野管理審議会
9月28日　中部森林管理局

◎林政記者クラブ国有林視察
9月29・30日　岐阜・飛騨署管内

◎国有林野事業労働衛生週間
10月1～7日

◎造林現地検討会
10月6・7日　飛騨署管内

◎国有林野事業協力者感謝状贈呈式
10月12日　長野県上松町

◎林道現地検討会
10月13・14日　東濃署管内

◎森林倶楽部
10月15日　中信・岐阜署管内

◎名古屋シティ・フォレスター事業
10月21日　東濃署管内
10月28日　岐阜署管内

◎グリーンボランティアサミット
10月29・30日　岐阜署管内

編集　中部森林管理局広報室　編集人　中嶋勝浩